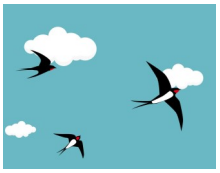
みなぎの通信



県立吉川高等学校　学校だより
令和５年度　第５号
2023年５月19日（金）発行
【ツバメ】

民主主義を学ぶ場としての生徒総会

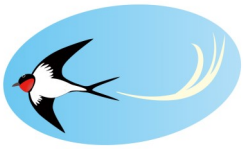
５月９日（火）、生徒総会が開かれました。生徒総会は全校生徒が参加する最高議決機関です。収めた生徒会費を何にどれくらい使うのかを協議すること等、自分たちの学校生活を充実させるために「自分たちで考え、話し合い、決める」経験を積むこと自体が目的であり、民主主義を学ぶことでもあります。従って「無関心はルール違反」です。

ただ今回は、全く異議や意見が出ず“平穏無事”に終わりました。選挙権年齢が18歳以上となった現在、生徒総会は「主権者意識」を育む貴重な場でもあっただけに“残念な”気もしますが、生徒たちはきっと、みなぎの祭（文化祭）成功に向けた参画と協働の体験を通して、民主主義を学んでくれるものと期待しています。

テーマは「華楽富瑠（からふる）」～第50回みなぎの祭(6月16日)～

生徒総会で第50回みなぎの祭のテーマが発表されました。「華楽富瑠」。日頃から一人一人みんな違う色で輝き、みんなと一緒に色まみれになっている本校生。極彩色からパステルカラーまで、既に十分カラフルな本校生が文化祭で化学反応を起こしたら、どんな素晴らしいものができあがるのでしょうか。今から楽しみです。

成長を「待つ」ということ ～PTA総会に寄せて～



４月の中旬、今年も「春の定期便」ツバメが空をかすめる姿を目にし、思わず「お帰りなさい」という気持ちになりました。昔から、ツバメが営巣すると幸福を呼ぶと伝えられてきました。ツバメは私たちに愛らしい子育ての日々をさらしてくれます。巣を作り、卵を抱き、休みなく餌を運ぶ親と、いつの間にかたくましく育ち巣立っていくヒナ。親子や夫婦の情愛、生命の神秘と尊さを教えてくれているかのようです。

鳥の親子に関して「啐啄同時」（そったくどうじ）という言葉があります。卵の中からヒナが殻を破って生まれ出ようとする瞬間、内側からヒナが殻をつつくのが「啐」、外側から親鳥がつつくのが「啄」です。万が一、時期が早すぎてヒナに力がない時に親鳥が殻をつつけば、卵の中でヒナは死んでしまい、反対に、ヒナが内側から合図を送っているのに親鳥が気づかなかったり、親鳥につつく力がなかったりした時も、ヒナは死んでしまいます。この自然の不思議さ、絶妙のタイミングを表現した言葉が「啐啄同時」です。

機の大切さ。これは「命あるもの」を相手にするすべての営み、もちろん教育にもあてはまります。学校においては、生徒がヒナの立場です。生徒側からの合図「啐」は、個人差が大きいものの、概して弱々しく、心もとないのが現状です。「啐啄『同時』」ではありますが、卵が孵化するにあたってまず行動を起こすべき主役、主体は「啐」の側です。もちろん、教員は、「啐」がいつ本格化し力強さを増してきても対応できるよう、常にスタンバイしています。

運動競技のコーチングも同じですが、人にものを教える場合、相手に知りたい、教わりたいという意欲、熱意があらわれた時に教え込むのが理想でありコツです。コーチする側が先回りして教えすぎると、かえって教わる側のやる気や成長の芽を摘み取ってしまうことにもなりかねません。だからこそ、教員は「生徒の『自ら育つ（変わる）力』を信じ、生徒が育つ（変わる）ことを『信じてかかわる』」のです。

本日のPTA総会・学年懇談会が、「見守る」「待つ」「寄り添う」「受け容れる」「耳を傾ける」をキーワードに、保護者等の皆様と教員が一緒になり、卵一つ一つの外側から内部の様子をうかがい知るきっかけ、「啐」と「啄」が響き合う契機となれば幸いです。特に、日常から「待つ」ことの価値が失われた現代だからこそ、その生徒なりに成長していくことを「待ちたい」ものです。

よ喜び か感動 わ分かち合って 50年！

兵庫県立 吉川高等学校

〒673-1129
三木市吉川町渡瀬300-12
Tel 0794-73-0068